

今回はここに注目

ポートフォリオ

となりの学校の進路指導

file.1：茅ヶ崎西浜高校(神奈川・県立)

スモールステップの振り返りを積み重ね 自己理解や進路実現に活かす



細分化した質問により
経験を抽象化し、データで蓄積

生徒の進路が大学進学から就職まで多岐にわたる茅ヶ崎西浜高校。頻繁に自身のがんばりや感じたこと・考えたことを振り返り、それをポートフォリオとして蓄積、進路実現のためにも活用している。

振り返りの機会は、入学直後に取り組む中学時代の振り返りをはじめ、学校行事・進路行事後や学期・学年の終わりに設定。その回数は1年間で約20回に及ぶ。振り返りの内容は、Googleドライブ、もしくはスタディサプリのポートフォリオ機能を活用して一カ所に蓄積していく。

取り組み方の特徴は、複数の文章を順序立てて書くことや自己表現が苦手でも取り組みやすいよう、スモールステップで思考を深めることだ。質問項目はできる限り細分化。例えば文化祭や体育大会などの学校行事では、まず「自分の役割」「大変だったこと」「どう乗り越えたか」という経験を整理し、そのうえで「この経験をどう活かすか」という抽象的な思考を促す(図1)。

「活動全体を振り返ることが難しい生徒も、短文でもいいから一つずつ質問に回答していくことで、最終的に内容が深まるようにしています」(進路支援グループ副リーダー！湯川幹子先生)

また、学期・年度の節目で行う振り返りでは、学習面・生活面・活動面それぞれについて「経験」「そこから得たこと」「次の目標設定への接続」を記入する(図2)。

「自分にとって最も印象的な経験を起点

進路指導の全体像について

Q 進路支援のポイントとは？



A 本校の生徒は明るく元気に学校生活を楽しんでいます。ただ、長期的な視野で将来を考えるより、目の前の楽しさを優先する傾向も。楽なほうに流されてしまい、卒業後に進路のミスマッチに気づくことにならないよう、早期から自己理解を深め進路意識を高める活動の充実を図っています。例えば、1学年では「高校の学習・生活習慣を身につける」「自分を知る・視野を広げ、自分の将来を考える」などの段階的な目標を設定し、進路講演会や自己理解のワークショップやインターシップ、学校調べなどを計画的に実施しています。(藤山先生)

Q 年度による取組の差を小さくするには？



A かつては年度によって進路の活動内容に差があり、良い取組を行っても翌年度に引き継がれにくい状況でした。現在、各段階で行いたい最小限の内容の「36カ月キャリア計画」を作成し、学校全体で共有しています(左図)。見直しをもって準備を進めることができ、行き当たりばったりになることや抜け漏れがなくなり、学年団による差が小さくなりました。内容は毎年、各学年の意見を取り入れて改善しています。これを最小限のラインとして、学年団によってはプラスアルファの活動を柔軟に行っています。(湯川先生)

- あなたの役割は？
- 役割達成度は？(4段階・数字で記入)
- 役割を通じて学んだことを書こう。
- 準備期間において頑張ろうとしていたことと、それが実行できたか、その理由を書こう。
- 当日において頑張ろうとしていたことと、それが実行できたか、その理由を書こう。
- クラスのみんなで頑張ったこと、できたことは何でしたか？
- 「頑張っていた」「輝いていた」「みんなを支えていた」という人を挙げよう。
- 仲間たちと一緒に活動する中で、自分自身について気が付いたこと考えたこと、悩んだことを書こう。
- 振り返っている中で気が付いた「自分の持っている強み」「今後伸ばしていく余地がある力」はどんなものだろうか。
- 今回の経験から学んだこと、得たものは何ですか。
- 今回の経験から学んだことは、これからの自分の生き方、学び方、働き方にどんな影響をあたえるだろうか。考えよう。
- 今回の振り返りを踏まえて、来年の西浜祭に対する意気込みを書こう。

ダウンロード可

ポートフォリオ作成の留意事項(重要事項)

Q: ポートフォリオとは？

A: 学習活動の取組、研究活動、自宅学習、定期試験、資格・検定など

Q: どのようなポートフォリオを作成すればよいのか？

A: 学習活動の取組、研究活動、自宅学習、定期試験、資格・検定など

Q: どのようなポートフォリオを作成すればよいのか？

A: 学習活動の取組、研究活動、自宅学習、定期試験、資格・検定など

▼テーマ

A: 学習面(授業の取組、研究活動、自宅学習、定期試験、資格・検定など)

B: 生活面(欠席・遅刻、ルールを守る、清掃活動、友人関係など)

C: 活動面(部活動、体育大会、生徒会活動、委員会活動、ボランティアなど)

▼質問(各テーマ共通)

【経験】一番印象に残ったこと、一番力を入れたこと、**【振り返り】**そこから得たこと、学んだこと、成長したこと、**【目標設定】**次の学期に向けて、どのように取り組んでいきたいかを記入する。

[illegible]

返りに力を入れている。学校を挙げて論理的思考力育成に向けた授業改善に取り組むなかで、振り返りの効果にも着目。授業プリントの最後に振り返り欄を設定するなどし、自分の思考や行動を客観的に捉える、論理的思考力を日々磨いているのだ。

振り返り方は、教科・科目の特性などに応じて工夫が見られる。例えば家庭科では「新しく学んだこと、気づいたこと」を指定の接続語でつないだ2文で表現すること、自ずと論理的でわかりやすい文章が書け

で必要となる志望理由書や自己PR、面接の対策につなげている。

そのためのワークの特徴もスキルステツプだ。志望理由書ワークでは、「興味のある社会問題」「将来就きたい職業」「その職業に就いて社会問題の解決にどう貢献したいか」という細かい質問に回答することから始める。自己PRワークでは「自分の強み」「強みを活かす経験・エピソード」「強みを将来どう活かしたいか」という流れを示し、説得力のある文章展開へと導いている。

「近年、年内入試利用者が増加し、対策も早期化していますがスムーズに進められています。1学年からの進路活動の充実と併せて、スモールステップの振り返りを数多く重ねてきた効果を感じます」（藤山先生）

今後については、「生徒が無理なく振り返りができる質問の工夫をしていく」（湯川先生）、「質問にかみ合った答えができるようう踏み込んだ指導も行いたい」（藤山先生）とさらなる改善を目指している。

に考えを深めていくことで、自分の強みや興味・関心に気づき、次の学期に向けた意欲につながるのがねらいです」(同リーダー！)

藤山直樹先生

**各教科の授業の振り返りで
論理的な表現の練習を重ねる**

るようにしてやる(図③)。

**志望理由書や自己PRなど
年内入試への対応もスムーズ**

2学年3学期から3学年1学期にかけて、それまでのポートフォリオを俯瞰し、高
校生活で学んだことや自分の強みを総括

「部活動やボランティアなどの特別な活動をしていない生徒も多いですが、日常の経験から進路に活かす材料を見つけ、自分の言葉でまとめています」湯川先生

以前は、3年生になって「やりたいことが何もない」と言う生徒の割合が非常に多かったという。しかし、数年で状況は大きく変わったという。

「36カ月キャリア計画」に基づく進路指導や、細やかなキャリアカウンセリング（個人面談）、振り返りのポートフォリオ化などが評価され、第17回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰を受賞。

A エキスパートの先生しか対応できない属人的な業務をつくらないよう、一人ではなく複数人で担当、資料はクラウドの共有フォルダに保存しています。また、週1回のグループ会議は、何かを決定するだけでなく、情報共有・意見交換の場として「ミニセッション」しています。

（藤山先生）

Q グループの組織力を高める工夫は？

[illegible]